

令和7年度 第2回青少年育成委員会 会議録

- 1 日時 令和7年10月11日(土) 午前10時～午後0時30分
- 2 会場 豊田市青少年センター 会議室 A
- 3 出席者 委員／大村恵(委員長)、斎藤茂美(副委員長)、宇井一弘、白川陽一、西本昌司、稗田猛
(敬称略) オブザーバー／近藤啓史、藤田憲彦、杉山基明、藤本聡
事務局／永坂正和、近藤雅子、荘田元宣、山中浩之、中根史義、山村聡志、松浦友洋、
水野路子
- 4 内容 総合野外センター山村の司会により、以下のとおり進行した。

(1) 会の成立

委員8名中7名の出席を得て、委員会規則第6条第1項に基づき、委員会の成立を報告した。

(2) 主催者あいさつ

杉山副理事長があいさつをした。

これ以降、大村委員長が議事を進行した。

(3) 議事

①議事1 青少年育成委委員会 前回の会議録について

●事務局より説明。資料：議題1

議事録については、昨年度の委員会で、公開することを諮った。

その際、財団のHPでの公開が承認された。目的は「委員会の活動について市民に周知を図り、財団の運営に理解を得ること」。

公開に当たって、①発言した委員の氏名は記載しない、②会議の内容は要約表記とする、③事務局説明や事業の内容に関係ない発言に関しては記載しない、④会議資料は基本的に掲載とするが、モニタリングに関する資料は掲載しない、⑤個人団体及び施設等、名称が特定されて支障があるものについては、内容によって公表するかを委員と協議して配慮する。

以上の5点に配慮する形で掲載する。この要件を踏まえながら、配布した会議録について、自身の発言内容について、加筆・修正等があったら申し出てほしい。

議事1について、意見・質問は無かった。

②議事2 令和8年度事業計画(案)について

●事務局より、予算含め協議中の資料であることを説明した。

●事務局が資料(掲載省略)に基づき説明した。

議事1について、以下のような質問と意見があった。

«青少年センター事業についての質問と意見»

(委員)

サロン（つながり）事業は、サロンカフェを行うには想定が少なく感じる。

(事務局)

人数が適切かは、今後検討する必要がある。今の想定では、月に4回程度、夜間に行いたい。つながり事業は、サロンにつながりあえるような空間を作っていきたい。カフェだけでなく、ボードゲームを通じて若者が集まれる機会などを検討していきたい。

(委員)

48回としても、1回あたり2人は寂しい。4階の交流室の利用者が中心か。

(事務局)

個人登録の学生が中心になる。

それ以外の学生にも声をかけ、個人登録の人数も増やす狙いがある。

(委員)

夜に青年たちが集まるのは、かつての青少年センターをイメージする。集まる方たちが増えていくことを期待したい。

(委員)

二十歳のつどいの内容を具体的に教えてほしい。

(事務局)

青少年センターとしては新規になる。既に、豊田市でやっている事業に、青少年センターが協力に入る。

各地区の実行委員が参加する会議にセンターが入ると、20歳の方とつながれるメリットがある。

会議は、アイスブレイクと記念品や記念事業を検討するワークショップを実施した。

(委員)

全28地区が対象で、代表が1人参加か。

(事務局)

声掛けは28地区行き、代表が1人参加する。

(委員)

私の地域だと、実行委員が立ち上がったときにリーダーが2人決まる。その人たちが出ていると想像する。センターからは、地域に参加の要請を出しているのか。

(オブザーバー)

二十歳のつどい自体が、コミュニティ会議と委託契約している。各コミュニティ会議の窓口が交流館職員で、窓口を通じて各地区へ声掛けを行い、代表を選んでもらっている。

数年前からこの方法を実施している。

(委員)

今年度までは、市の方が取り組んでいて、来年度からは共催ということか。

(オブザーバー)

これまでどおり、市で依頼等は行うが、そこにも、センターと一緒に参加して、つながっていくことを期待している。

(委員)

委員から、実行委員を増やしてもいいのでは、との趣旨の話があったが、これは可能か。

(オブザーバー)

市の方で検討したい。

(委員)

2人以上の方が、欠席を避けることができる。

(委員)

リーダー1人決めるのも難しい。

(委員)

サロン(つながり)事業について、サロンロビーに関わる子たちが事業に参加するようになったり、施設利用者の人たちが定着する場としてのサロンロビーになったり、相互のいろいろな循環を機能させるために、事業化していく試みはとても重要である。

カウンターの仕方は、難しいかもしれないが、人数も一つの目安になる。

サロン(つながり)事業からどういう若者が生まれて、その若者がどの事業につながっていくだとか、逆に事業に参加した子たちが、サロン(つながり)事業の噂を聞きつけて定着していくだとか、サロン(つながり)事業で仲良くなった子たちが、学まち(学生によるまちづくり提案事業)まちだとか WAKATTE(若者によるまちづくり提案事業)だとか自主的な事業につながっていくだとか、いろいろな可能性がある事業だと思う。ぜひストーリーを集めて、ほかの事業への横展開とか循環が出てくれば、そのようなストーリーも、また来年度に聞いてみたい。これは試行錯誤していかないと、わからない事業である。

参加者が卒業すると、次に人数が大幅に減るなど、不安定にもなりやすい。関係構築をしていく中で、いろんな事業へ波及する母体事業になっていければ良い。

(委員)

高校生ボランティアスクールは、一貫してやっていて素晴らしい。今年度は中学生も含めての取り組みだったと思うが、そうではないか。

(事務局)

引き続き、高校生限定だった。

(委員)

中学校の部活動が縮小してきて、放課後の活動や土日の活動で、中学生が力を発揮できる場が減少していると思っている。学校によっては、ボランティアクラブをやっているところもあると思うが、青少年センターでも、中学生を対象としたボランティアへの入門となるような事業をやってもいいのではないか。中学生向けの事業は難しいか。

(事務局)

センターの事業にも、一部中学生を対象にしたものがあるが、基本的にはスタートは高校生からにしている。中学生の状況は分かるので検討が必要だと思う。高校生ボランティアスクールは大変人気で、3コースから5コースに増やしても参加できない方がいる状況である。

(オブザーバー)

中学校の部活動は、令和8年9月から地域への完全移行を目指している。基本的には現在の部活動の種目はそのまま、これまで通り中学校で活動し、携わる方が教員から地域の指導者になるというイメージで進めている。

ほかの地域、ほかの自治体を見ると、スポーツクラブに委託とか、民間業者に委託とか、そういう手法でやる自治体もあるが、豊田市はあくまで地域の皆さんで支えながら、中学校の部活動を地域に展開していこうと考えている。

(委員)

地域の皆さんというのは、コミュニティスクールか。

(オブザーバー)

市役所の方で人材バンクというものを立ち上げ、そこに登録した人の中で各指導者を募っている。現在、指導者と補助員をあわせて1,100人強の方が人材バンクに登録している。その指導者を希望する方が、28中学校区のどのエリアを希望されるかの調査をしながら、マッチングをさせている。

(委員)

1,100人だと今の規模を維持できるのか。

(オブザーバー)

可能だと考えている。

指導者以外に指導はしないが見守りなどを行う補助員も募集している。平日の活動も含めると、もう2~300人が登録すると、より活動が安定する。

また、学校によって生徒数やクラブの数に違いがあり、地域によってもばらつきがある。

(委員)

中学生の活動の場所が減るわけではないということか。

(オブザーバー)

基本的にはないと思っている。

(委員)

中学生のボランティアは、地域学校協働本部のコーディネーターが地域と一緒に募集している。

高校生はたくさん来るが、中学生となると、移動手段の問題もあって参加が難しい。

協働本部は、学校に設置されている。そこを通じて、地域は地域で中学生ボランティアを育てていき、ボランティア精神が芽生えたら、高校生ボランティアなどに発展していける。

自分の地域は自分のところで育てていくよう、力を入れたほうが上手くいくのではないか。

(委員)

地域学校協働本部で、各地域で子どもたちの活動を広げていくのは、非常に大事である。それに対するサポートの点では、青少年センターの役割もあると思うが、地域学校協働本部とのつながりについて何か考えはあるか。

(事務局)

今のところつながりはない。

(事務局)

財団全体としては、文化等いろんなセクションがあって、職員も市役所に出向して、一緒に仕事をしている。そういったパイプを持ちながら、その中でトータル的に進めている。

(委員)

どういう子どもたちの活動が広がっているかを把握することが重要である。情報収集を教育委員会と協働するといいいので検討してほしい。

《総合野外センター事業についての質問と意見》

(委員)

乳幼児期と青年期を対象とする事業を本格的に取り組んでいくのは、良い方向である。

青年期の指導者育成事業と社会参加のところに青年期の事業が多い。それも大事だが、青年期の大学生、高校生くらいから、初めて野外活動に参加する人たちもいる。表だと環境や仲間との出会いが、小学生に限定して実施予定だが、野外活動の入り口は全ての世代で、開かれていた方がいい。高校生、大学生、社会人から野外活動に参加するのも検討してほしい。

(事務局)

この体系図が切れ目のない野外活動への参加・機会の提供を示すために作ってあるために、年齢層が高いところは、体験を積んできたという思いで作ってある。

指摘の表現が上手くできていないところがある。青年期だけではなく、全ての世代に、入り口をしっかり作って事業参加してもらえようような取り組みをしていきたい。

(委員)

野外センターは、たくさんの事業があるのは良いことで、主催事業は主催事業で頑張してほしい。一方で、アクセスの問題など、利用が増えることに伴い車の利用が増えるので、施設的な整備を進めていく必要がある。

残念ながら、世の中の環境が、徐々に私たちの思うような環境でなくなっていると感じる。今まで、使えたのが使えなくなるなど増えてきた。世の中のルールも、火を焚いてはいけないとか、子どもだけでキャンプはできないとかできてきた。その点は、野外センターには期待をしていきたい。

新たな利用者も増やししながら、私たちのような利用者も心地よく使える施設整備をお願いしたい。

アクセスについて、来所の手段は、現状は自家用車しかなく、バスでいくと東照宮から歩いていく方法はあるが、なかなかそれに頼るわけにいかない。

いい施設なので、是非多くの市民の皆様にご利用されるような環境作りをしてほしい。

(事務局)

利用対象が固定的だったときに合わせて施設ができています。

利用の幅が大幅に広がったことに伴って、施設の利便性等も変えていく方向性は見出している。豊田市と相談して、どうしたら幅広いニーズに対応できるかを一つ一つ詰めて改良していきたい。

(委員)

松平東照宮から歩くとどれくらいかかるか。そういった団体はあるか。

(事務局)

小1時間かかる。団体は無いが、事業では東照宮へハイキングして、東照宮で解散する事業がある。周囲にある学びや楽しめる環境をアピールしていきたい。

(委員)

以前、山の子学級だったと思うが、六所山から歩いて東照宮に行って、どんぐり拾いをする事業をモニタリングしたことがある。

バスで東照宮まで行ってそこから歩くというアクセスの仕方があるということは、おそらく一般的には知られていないと思うので、それが子ども会やPTAや地域コミュニティの本部の方へ周知すると、もう少し参加者層が広がる可能性がある。

以前は、松平地区のコミュニティバスが走っていたので、電話をかけてバスを呼んで六所へ行くことが可能だったが、それができなくなったので、何かアクセス方法は考えたい。

(委員)

表にあるかわからないが、コロナ禍では、アウトリーチ形で、学校でのデイキャンプとか、こども園での焼き芋づくりとかあったが、来年度はあるか。

(事務局)

共催事業のアウトリーチ講座応援アウトドアを、年3回3団体を想定している。

(委員)

今年度も3団体埋まっているか。

(事務局)

埋まっている。

(委員)

枠を広げるのは難しいか。

(事務局)

野外センターの利用状況に余裕があれば、3団体の枠を広げることは可能である。

《産業文化センター事業についての質問と意見》

(委員)

2つ教えてほしい。

1つはプラネタリウムで、いろいろプラスネタリウムは名前が面白く内容が気になる。何を目的に、どんなことをしているのか教えてほしい。

もう1つは展示整備事業で、展示整備事業というのは、科学体験館としては、非常に重要な事業である。何時どれくらいの規模で、どんな内容の展示を検討されているのか知りたい。

(事務局)

いろいろプラスネタリウムは、プラネタリウムならではのテーマやタイムリーな話題を取り上げたライブ感を活かした特別投映となる。普段の一般投映とは違い、ゲストを招いて講座や、コンサートを実施している。後期のモニタリング事業でも、今年度のプラスネタリウムを紹介したい。

展示整備事業について、当館の展示は、ものづくりサポーターの手作りの展示が多い。整備委員会に、ものづくりサポーターの代表の何人かが入っていて、当館の職員と月1回の委員会を開催している。そこで展示の不具合を直している。また、整備委員会で新規の展示物の計画をして、製作を行っている。

(委員)

大きく展示を変える計画はあるか。

(事務局)

年間1つか2つ展示物の製作をしている。全体の流れを変えるところまでは至っていない。

(委員)

展示というのは、館の中核である。これは財団ではなく豊田市に言った方がいいのかもしれないが、名古屋市科学館でも何十億円というお金をかけて、展示を12年前に作っている。非常に時間もお金もかかる大変なものである。

現状は、小規模な修繕ということだが、科学体験館の展示はかなりくたびれているから、市と協力してフルリノベーションを考えて良い時期である。

(事務局)

展示がよく来館するお客様から、代わり映えがないと言われるのは寂しいので、一つ一つ更新している。科学体験館となってちょうど 20 年という節目の年でもある。これを機に、展示を今後どうしていくかについて、市と協議しながら進めていきたい。

(オブザーバー)

科学体験館とものづくりサポートセンターを所管している。

委員から意見があった展示の視点は認識が薄かったので、参考にさせてもらいながら、検討を進めていきたい。

(委員)

是非お願いしたい。体験館は科学館の一種で、主体が展示となる。普段から子どもたちが科学に触れられる展示を作ってもらうのは、科学教育の上で非常に重要である。

(委員)

是非検討して、より良い展示にしてほしい。受託事業ということなので、市の方で方針を決めてもらうことが大事になってくる。

(委員)

自然科学体験教室が廃止という説明だったが、その経緯・理由について説明してほしい。

(事務局)

自然科学体験教室は、3 年間で一定の効果を果たしたこと、1 泊 2 日で行う都合で、職員が館から出てしまうと、館側の人員の確保が難しい。類似事業はあるので、区切りをつけ廃止とした。

(委員)

恐らく生物学的な分野かと思うが、ほかの事業でカバーできるのか。

(事務局)

レッツエンジョイサイエンスは近くの公園に行って、植物や昆虫を採取して、自然に関することを網羅している。内容的に重複したので廃止とした。

③議事 3 令和 7 年度モニタリング事業評価（前期分）について

●青少年部について事務局より説明。

各施設から事業の簡単な説明と報告を行った後、事業評価書の説明を行った。

●青少年センターについて事務局より説明と報告。資料：議題 3 P2～18

(委員)

若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE について、事業評価の説明があった。18 歳～35 歳というかなり幅の広い対象でやっているが、ねらいに「思考力や判断力等の生き抜く力を育み」とある。一般的には、義務教育段階の子ども・若者に対してよく使われる表現である。「思考力や判断力等の生き抜く力を育み」について、社会人と 18 歳段階では想定が若干違うのではないかと気になった。

50 万円という少なくはないお金を、団体に貸し出すという事業の構成上、いろいろな団体の参加があると思う。事業提案団体は、伸びしろのある団体というよりも、このお金を委託しても効果的に使ってくれる団体が採択されやすい構造にあると思った。教育としてやっていくのか、委託事業として間違いのない団体を選んでいくのか。その点を審査員がどのように考えているのか気になった。

参加対象について、社会人団体がプレゼンの中で、豊田市の総合計画から関連付け、自分たちの事業の妥当性を説明していた。そういう観点は、10代の学生団体だと厳しい。専門家の助言がある団体とか、既に専門家がいる団体であれば、通りやすくなるが、そうでない団体にとっては、専門家が含まれる35歳に近い団体と競うのは難しい。改善は構造の話なので難しいと思うが、審査員と評価の視点を揃えていく必要がある。

事業予算の適切性について判断がつかなかった。妥当かどうか、ほかの委員の意見も聞きたい。

別室での審査会があった。その中で、昨年度の採択団体も参加していた。彼女らの発言が最も少なく、審査員の方たちがたくさん話をしていて、最も尊重すべきは、昨年通った団体のメンバーの意見なので、緊張もあったと思うが、当事者の意見をもっと反映していく場を作るべきだった。

基本的には、貴重な事業なので、継続していくべきである。

(委員)

若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE 及び学生によるまちづくり提案事業について、事業評価の説明があった。

初めて、モニタリングをして、すごく素晴らしい活動をやっていると率直に思った。

予算に関しては、よくわからなかった。

発表時間が15分だった。発表時間に合わせた内容を用意してくると思っていたが、15分は長かった。例えば10分を発表、5分を質疑に使える、発表の後のつながりやほかのグループとの話し合いができたのではないか。

若い人たちがしっかり考えて物事を進めていくのが良かった。一般の人たちにも見てもらいたかった。動画配信すると、いろいろな人たちに見てもらえる。同世代の人たちで、一緒に何かできないかと思っている人もいると思う。内々でやるだけでなく、もっと周知していける手段があると一般の人に見てもらえる。

学生は、大人の考えと違っていた。大人が無理だとわかっている、それをどうにかしようという発想力というか、大人が逃げ腰になっているところを、進んでいくパワーがあり、そこは見習うべき点だった。

野外センターでも書いたが、当日、青少年育成委員として名札があると誰か分かってもらえる。名札を準備してほしい。

若者によるまちづくり提案事業 WAKATTE について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

委員から予算について、細かい内訳がわからなかったとあったが説明できるか。

(事務局)

79万円の内訳は、①採択された団体に50万円②12万円程度は審査員への謝礼とチラシデザインの謝礼、③YouTube用撮影手数料で10万円ほど、④PR用の印刷物に5万円、⑤消耗品に1万円。

(事務局)

ねらいについて、今の若者(特に20代)には義務教育後も生き抜く力をねらいにすることは必要だと考えている。ただ2年前から対象を35歳に引き上げてからもねらいを変えていないため、違和感が生じている。来年度に向けてねらいを考えていきたい。

既に成熟している団体の方が採択されやすい構造については、様々な経験から有利に働いている可能性がある。審査員には審査基準を基に、事業の継続性や、採択団体の成長等をイメージして選んでもらっている。今年度の採択団体は、そのイメージが評価された。一方で、昨年度は学生団体が採択されている。学生団体が、絶対選ばれないことはないが、委員が言ったことも事実である。

まちづくり提案事業は、学生によるまちづくり提案事業と WAKATTE の2つを用意している。基本的には学生は、学生によるまちづくり提案事業をメインに考えている。WAKATTE に18歳以上を残しているのは、学生によるまちづくり提案事業から発展的に参加してほしいという思いから。まちづくり提案事業が、青少年教育なのか人材育成なのかということも内部で話しながら精査をしていきたい。

補助金の制度が豊田市の中にもいろいろある。青少年センターには、WAKATTE や学生によるまちづくり提案事業の補助がある。こども・若者政策課にも補助がある。それ以外にも、豊田市の若者に対する補助はいくつかあり、今調べている。その団体にふさわしい案内なども、青少年センターでも連携を取りながらやりたい。

採択メンバーの発言量が少なかったというのは、采配が原因だった。今回、採択団体が1次審査と2次審査に別人が来たのが大きかった。同じメンバーが来てくれると良かったが、別の人 came こともあり、緊張感があって発言が少なかった。もう少し声をかけながら皆さんが発言できるような審査会になるといいので、来年度に向けて準備をしていきたい。

15分が適切か長いかについては考えていきたい。ただ、プレゼンが終わってすぐ審査するので、交流会で話すことはできない。プレゼンの中でその要素を全て話してもらわないといけない。そこが10分なのか15分なのか今後話していきたい。

配信に関しては、二次審査という特性上、配信をしていいかを考えていきたい。

最終報告会は、採択された団体の発表があり、そちらは配信している。

(委員)

採択団体に対する追跡調査はしているか。どれくらい実現できたかを調査しているか。

(事務局)

している。実際に6月29日に決まって、そのあとすぐキックオフミーティングをした。そこから毎月、必ず報告をしてもらっている。常に、職員と採択団体でもLINE等をつなぎ、常に連携を取りながらやっている。最後、自分たちがどんなことをやってきて、どんな効果や成果があったかという報告をしてもらう。

(委員)

最終報告は、いつか。

(事務局)

3月8日(日)になる。

(委員)

4時間で各団体15分ということは、1時間くらいが報告時間で、あとの時間はどのような使われ方をしたのか。

(事務局)

15分でプレゼンをして、そのあと10分程度質疑応答がある。入れ替わり含め1団体30分使っている。今回は4団体なので、最初の2時間で発表をして、そのあと1時間で審査をした。

(委員)

委員からは、交流の時間が交流になっていないのではないかとの指摘があった。

(事務局)

その件は、審査をしている間に採択された団体で交流するよう声掛けはしているが、職員が全員審査に入っているので、つなぐことができなかった。対応について検討していきたい。

(委員)

学生によるまちづくり提案事業について、事業評価の説明があった。

昨年度を上回るとても多い人数を受け入れており、サポートは大変そうだが、それを受け入れる決断を応援したい。可能性を育てるという意味で応援したい。

基本的に雰囲気が高く、一緒にやっていきたいというような、参加者同士のつながり感も感じられた。我々委員も中に入らる中で、全体で支えていると思えたのはとても良かった。

評価点3にしているところは、プログラムの進め方の話で、定期的なオフィシャルな会を除けば、グループでの縦割りの活動が始まってくるので、全体会の中で横のつながりを多く作っていく仕掛けをどんどんやっていくことが大事である。

伴走支援はとても大変だと心得ている。私含めいろいろなリソースがあると思うので、カウントしてもらえればと思う。

学生によるまちづくり提案事業について、意見・質問は無かった。

●野外センターについて事務局より説明と報告。資料：議題3 P19～P34

(委員)

キャンプスタッフトレーニングキャンプについて、事業評価の説明があった。

全5回のトレーニングを1回見て評価するというのが難しかった。

トレーニングという視点で見た。

総合野外センターとして、スタッフにどういう人間像を求めているのかが見えない。こういうカウンセラー（キャンプスタッフ）になってほしいとか、あるべき姿というところが、5回見ないとわからなかった。

知識・技能は書いてあるが、心構えを明示するべきではないか。自分で考えて、考えたことを意見交流して、あるべき姿を学習したのかどうかが見えていないので、心構えが欲しいと思った。

大学1年生～大学4年生まで、経験者と未経験者が入り混じった研修のように見えた。経験者は、経験者なりの経験を踏まえた学習やトレーニングがあるべきだ。せっかく経験者がいるのであれば、経験された2～3年生に、新たなプログラムの開発だとか、学習の場があったり、提案の場があったりすると良かった。それによってプログラムのマンネリ化を防いだり、新たな取り組みができたりするのではないか。

31名の参加者は、たくさんの参加者だと感じた。こういったことに興味を持った大学生がたくさんいることに感心した。

野外センターのスタッフは、丁寧によく考えてやっていたので、その点は、特に問題ない。

プログラムの構成としては、説明して、体験して、振り返りしてという流れなので、それはそれで十分である。ただ、ここで設定されている、仲間との協力については、カウンセラー（キャンプスタ

ツフ) 同士の協力という意図からすると、少し不十分だと感じた。そういうところを明確にすると、もっと良くなる。

参加者の反応は、いい仲間できているところもあるので、和気あいあい楽しそうなおところがあったが、それだけでは不十分だった。導入としては、仲間づくりが良くできていて良かった。

予算が適切かどうかは評価ができなかった。いつも、モニタリングするときに予算については書きづらい。どのモニタリングでも適切かどうか判断ができない。

総合的に考えて、大事なことは、総合野外センターが期待するキャンプスタッフ像を明確にすることと、心構えのところである。野外センターを使うキャンパーに、どういうサービスを心掛けるのか、どういう指導をするのが大切である。

キャンプスタッフトレーニングキャンプについて、以下のような質問と意見があった。

(委員)

修了することで資格を取ることができるか。

(事務局)

特にない。

(委員)

特に大学生対象ということなので、先ほど委員からもあったように、かなりレベルの違う学生が受けているので、その辺を考えないといけない。

修了証などを用意すると、参加のモチベーションにもなるし、また、そのことが履歴書等にも書けるので、励みになっていくような気がする。

また、そのためには、少しレベル分けをしないといけない。

(委員)

親子自然体験塾①について、事業評価の説明があった。

本当に素晴らしい内容で、見ていて参加したくなる雰囲気だった。場所的にはアクセスに苦労するところなので、周知徹底しながら頑張ってもらいたい。

親子自然体験塾①について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

9家族参加だが、応募はもっと多かったか。

(事務局)

50家族だった。

これに関しては、狭き門だったため、選外だった方に全く同じではないが、草木染めやピザ窯体験を日帰りで体験できる機会を作り案内した。

急な話で、行きたくてもいけないといった反応もあったが、何家族か草木染めとピザ窯体験に来たので、多少はフォローできた。

非常に人気があるので、できるだけ多く参加できる方法を考えていきたい。

(委員)

二丁の高さ分かったことは非常に良かった。ぜひ、機会を広げてほしい。

●産業文化センターについて事務局より説明と報告。資料：議題3 P35～41

(委員)

いろいろプラスネタリウム①について、事業評価の説明があった。

豊田市のプラネタリウムは、施設も機器も大変素晴らしい。来てもらうのが、一番それを分かってもらえる。その意味で言うと、普通に投影しているだけでは行く機会にならない。そこへ何かプラスされることで、行ってみようというきっかけになる。

今回はジュニアオーケストラを卒団した方が出演だった。参加者の様子は、大変優雅に心地よく聞かれていた。

開催された時間は、参加者は来やすい時間で良かった。

参加者は幅広い年齢層だった。早々と完売したのは、良いコンサートであることの裏付けになっている。

始めて参加した方が20%くらいだった。そこからつながりが広がるきっかけになる。

1番感動したのは、スタッフの言動だった。遅れ客を、暗い中、場内狭いところを案内していた。詳細は分からないが、やり取りの様子から、案内される方にスタッフが暖かい声かけをしていることがわかった。安全面からも心の面からもとても良い。事業の目的を達成するときに、意外にスタッフとか、その時の雰囲気というのが大きく作用する。この時に心地よく感じたということは、この事業良かった、この施設良かった、このスタッフが良かったとなるので、次に大きくつながる。

ジュニアオーケストラを呼んだということは、豊田市で活躍している人たちをまた活かしている。その子たちが出ているから行こうかなとか、いろんなつながりがあって良かった。

モニタリングとは関係ないが、科学体験館は雨が降ると水浸しになって大変だと聞いている。改修が入ると聞いて良かった。名古屋市科学館や静岡の科学館へ行ってみると楽しく、また行きたくなる。施設の改修に合わせて、展示の改修が実現することを期待する。

いろいろプラスネタリウム①について、以下のような質問と意見があった。

(委員)

参加者数について、定員120人だが、それ以上なのは、演者が入っているのか。定員オーバーでお断りすることは無かったか。

(事務局)

定員に達して完売したので、何人かはお断りしている。座席数の150席まで販売できる。

(委員)

発見科学コーナー①について、事業評価の説明があった。

こども科学館、こども博物館には、ディスカバリールームというのが世界中で設定されている。そういったところにあるように、インタラクティブな展示に仕上げた。その意味では、教育的手法も、科学的背景もある程度は理解している人が作っていることが分かった。

科学館の事業としては非常に良かった。ほとんどが子連れだったのが意外だった。もう少し欲を言えば、中高生に来てもらいたい。中高生を呼ぶのが非常に難しいのだが、中身的には小学校高学年から中高生に見てほしかった。

予算について、15,000円ということで、もうちょっとお金をかけたらと思った。青少年センターの事業予算額を聞くと、もうちょっと、科学教育にもお金をかけた方がいいのではないかと話すが、私も大学でプレゼン大会とかやっている。これは、まちづくり提案と似ている。発想力は素晴らしい

らしいが、実現のための根拠となるデータがほとんどない思い付きの発表である。このデータを取るというところが科学である。それが、科学の町の豊田で、なおざりにされているのは、まずい。科学の入り口の部分ではあるが、もうちょっと手当てしてもいい。

一方で、一過性のイベントとして開催されていたが、科学館というのは、展示が中核になる。他の委員も言ったとおりで、いつも同じ展示ではまずくて、マクドナルドの季節メニューのようなものは絶対に必要である。

逆に、これだけ人気のある展示を常設で作っていくと、スタッフが終日対応しなければいけないとか、いろいろ問題が発生するのわかるが、是非、常設で行ってほしいと思うくらいの良い出来栄えだった。

(事務局)

こういった事業を実施には、それなりに勉強もするし、いろいろなものを作っていく。今回だけにとどまらず、この中の一部分を常設できるように工夫していきたい。

発見科学コーナー①について、意見・質問は無かった。

④議題4 令和7年度モニタリング事業（後期分）について

- 青少年部全体の概要を事務局より説明。
- 青少年センターを事務局より説明。資料：議題4 P5～7

(青少年部)

P5 若者応援事業「とよた未来共創塾」の予算の市負担金分のコンマの位置について訂正とお詫びを行った。

- 野外センターを事務局より説明。資料：議題4 P8～P10
- 産業文化センターを事務局より説明。資料：議題4 P11～13

(科学体験館)

P3 事業一覧と概要のページのズレについて訂正とお詫びを行った。

5 その他

①令和7年度第3回青少年育成委員会の日程について

出席者の都合を確認し、次に決定した。

期日／令和8年2月21日（土）午前10時

会場／青少年センター

内容／モニタリング事業評価・令和8年度事業計画（案）など

②各施設からの諸連絡

(野外センター)

9月5日-6日の大雨で被害があった。センター職員による復旧作業、市の担当課発注の業者対応により、子どもたちの野外活動エリアに支障はない状況となった。林道、市道については、今も復旧中である。

以上